

## 学位論文審査の要旨

		要 旨
学位申請者	川口 奈奈美 【理学専攻 平成28年度生】	<p>本論文は、複数ある膵臓消化酵素の中で、脂質を分解するヒト膵リパーゼを、大腸菌を用いて活性酵素として発現する系を確立した。天然膵リパーゼは疎水性活性部位を持つ事、ならびに N-型糖鎖修飾を有する特質があるため、本論文では糖鎖修飾系を持たない大腸菌で発現した膵リパーゼと天然酵素との特性の差異を、物理化学的、生化学的に詳細に比較解析した内容である。</p> <p>本論文では安価で大量調製が容易な大腸菌を用いて、天然と同等の脂質分解活性を有する酵素の調製方法を確立し、得られた酵素の特性を解析し、膵リパーゼを修飾する糖鎖の役割を、熱安定性と生化学的情報分子としての両視点から解析した内容である。</p> <p>審査の過程では、研究背景、測定方法や実験条件の詳細、実験結果の解釈の適切性、結果の生物学的・医学的重要性等について質問され、申請者はこれらの質問に的確に答え、実験結果と関連文献の調査に基づいた自己の見解を示した。また、緒言、考察の図や説明に関しても、申請者は修正や追加を行った。</p> <p>以上の経緯を踏まえ、本学位論文は、大腸菌で発現したヒト膵リパーゼの特性の解明と将来の産業・医学応用の可能性を示した点で、学術的意義ならびに社会的意義も含むことを、審査委員会で審議し確認した。</p> <p>なお、本論文の内容の一部に関しては、既に申請者を第一著者として、英文国際誌に掲載されており、国内外の複数の学会やシンポジウムにおいて、本人が口頭・ポスターにより発表している。</p> <p>以上の実績からも明らかなように、本人は十分な研究能力、英語論文作成と討論の能力を持つ点も評価できる。本審査委員会は、2月21日(木)14時から、お茶の水女子大学理学部会議室にて行われた最終試験における結果も考慮して、本論文が本学大学院人間文化創成科学研究科における博士(理学)、Ph. D. in Biochemistry の学位を受けるに相応するものと判断し、合格とした。</p>
論文題目	膵リパーゼの大腸菌発現系の確立と糖鎖修飾の意義	
審査委員	(主査) 教授 小川 温子	
	教授 相川 京子	
	教授 森 義仁	
	教授 小林 哲幸	
	教授 藤原 葉子	
インターネット公表	<p>○ 学位論文の全文公表の可否 ( 可 ・ <input checked="" type="radio"/> 否 )</p> <p>○ 「否」の場合の理由</p> <p>ア. 当該論文に立体形状による表現を含む イ. 著作権や個人情報に係る制約がある ウ. 出版刊行されている、もしくは予定されている <input checked="" type="radio"/> エ. 学術ジャーナルへ掲載されている、もしくは予定されている オ. 特許の申請がある、もしくは予定されている</p> <p>※本学学位規則に基づく学位論文全文のインターネット公表について</p>	